都市経済常任委員会の行政視察報告

平成26年12月24日
都市経済常任委員会
委員長　佐藤　尚武

下記の通り視察研修を実施しましたので報告します。

○日程　　平成26年10月21日～10月23日

○視察メンバー　　佐藤尚武　古賀敏彦　成富一典　田中登志雄　山田忠　松村京子

○視察先　福知山市（京都府）　　観光資源・地域特性を活用した観光振興について
　　大野市　（福井県）　　食料・農業・農村に関する基本計画について

○視察研修内容

◎福知山市：観光資源・地域特性を活用した観光振興について

・人口　　80,872人（平成26年7月1日現在）　　小郡市の約1.4倍

・面積　　552.57ｋ㎡　　小郡市の約12倍

・市の特長　　昭和12年、京都府で2番目の市として誕生。
　　平成18年1月に1市3町が合併、新しい「福知山市」となる。
　　明智光秀が福知山城を築いて（1579年）以来、城下町として栄え、
　　北近畿の交通の要衝であり、日本有数の長田野工業団地がある。
　　京都市の北、約60ｋｍに位置する。

【観光資源・地域特性を活用した観光振興について】

1．従来は、商業・工業の街として栄えたが、少子高齢化等の進行により経済の停滞が始まり、平成18年の合併を契機に平成20年3月に「福知山市観光振興ビジョン」を作る。（舞鶴港に外国人が約2,000人居るため、4か国語のパンフレットを作る）高速道路等がつながり、当市が通過点（市）となることが予想され、危機感を募らせている。
〔平成24年125万人、平成25年89.3万人（全体の1.2%）と年々減少している〕
観光客が

2．観光の基本として「北近畿の都　福知山」の実現を目標としている。

3．基本は５つ

①北近畿を中心とした広域観光。中心を当市とする。

②観光関連団体や行政と連携強化。広域観光の振興。

③地域のあらゆる観光に対応した観光振興。

④宿泊・長期滞在型観光を目指す。

⑤環境に優しい健康増進、地域貢献型及び新しい観光の形態の確立を目指す。

4．具体的には“住んでよし、訪れてよし”のおもてなしの心を推進

○“海の京都”を推進（近隣７市町で構成。７市町の負担 2,600 万円。京都府も同額）

～回遊型観光

○イベントの推進

・お城祭り（昭和 61 年に天守閣を持つ福知山城完成。

・・・お城の瓦１枚１枚に寄付を募る。名前刻印）

・福知山音頭の推進（学校でも全員踊れるようにする）

・日本の鬼の交流博物館（大江山酒呑童子の里の交流）で全国鬼祭り　　等

○観光おもてなしプラン促進事業

・タクシー運転手さん等に“観光ガイド育成講座”を開催

・観光ガイドの会設立

○ＮＨＫ大河ドラマの誘致

明智光秀を中心としたドラマ誘致

○観光振興体制の充実

観光連盟（？）を法人化し、独立させる。

○市の観光資源紹介のため、三省堂とタイアップ。

ブックカバーを全国店舗へ７万枚配布。（事業費 137 万円）

（まとめ）

・京都市～宮津市（天橋立がある）等の通過市にならぬよう危機感を感じ、担当者以下懸命である。（大江山酒呑童子の里の責任者等）

・市民一体となっての推進を感じる（福知山城の１枚１枚の瓦の寄附・タクシー運転手さんへの観光ガイド研修・学校での福知山音頭の習得等）

・周辺地域（他市と共に）と福知山城の明智光秀を中心としたＮＨＫ大河ドラマの誘致～“周辺が一体となる”

等福知山市が、観光開発が今後の市の“発展”か“衰退”にかかっていることが如実に現われています。

※大事なことは小郡市でも同じです。観光分野だけでなく、農業でも商業でも企業誘致でも、市に発展か（衰退か）もっと一生懸命になる必要があると思います。どうも危機感がないと思われます。

※行政も議会も市民も一緒になって、観光開発（歩くを中心に。これが健康増進＝幸せにつながる）に力を入れるべきだと思います。

尚、福知山市の観光パンフレット他資料添付します。

◎大野市：食料・農業・農村に関する基本計画について

・人口　35,487 人（平成 26 年 4 月 1 日現在）　小郡市の約 0.6 倍

・面積　872.3 k ㎡　小郡市の約 19 倍

・市の特長　福井県の東端に位置しており、織田武将金森長近公が亀山に越前大野城（通称亀山城）を建設したことに起因。以後 400 年間、奥越の中心となり、平成 17 年、和泉村を編入、全国有数の広い面積を有する市となる。
豊富な緑と清らかな地下水に恵まれた小京都と呼ばれる美しい町として知られる。（本願清水イトヨの里がある）

【食料・農業・能損に関する基本計画について】

1．人口減が続き、農家戸数も農家人口も減っている。

㋑	平成 12 年	平成 22 年
人口	39.6 千人	35.3 千人
農家人口	13.2 千人	7 千人
総農家戸数	2,736 戸数	1,988 戸数

㋺認定農業者　個人 40　法人 26　合計 66　（平成 25 年末）

㋩特産物　ソバ・大麦・里芋（ブランド化）・大豆・ネギ・菊・ナス・穴馬スイートコーン・穴馬カブラ

2．“越前おおの型　食・農業・農村ビジョン“を平成19年に作成。『平成19年～23年の5年間で基本理念「越前おおのブランド」を目指し』として

㋑基本方針と施策

㋺数値目標を定め

㋩その成果を見る。

平成19年～23年の結果、別紙にある目標通りいかず

↓

この状況について農業推進会（農業者・商工業者・食品関係者・有識者・市関係者・ＪＡ等で組織）が諮問した

㋥中途平成21年に農業のあり方についてアンケート調査をする

後継者育成・小規模農家対策（特産物育成）等々のため

3．新たに平成24年3月　“越前おおの型　食・農業・農村ビジョン～「越前おおの型農業」の持続的発展～”を取りまとめる

・5つの基本方針

①農業・農村活性化

②多様な経営体の共生による農業の振興

③農産物の総ブランド化

④農地の適正な管理と農業基盤の整備

⑤鳥獣被害のない里づくり

③～⑤具体的な目標が示されています。

4．具体的目標達成のため（平成26年度令）

特に国や県が補助しにくい事業を市独自で支援する分

・特産物生産促進補助（里芋・穴馬スイートコーン等）・・・年間約1,300万円の補助

・結の故郷（さと）特産物拡大支援（小農家への必要な機械導入の経費補助）

・結の故郷生産者支援事業（小農家への生産物栽培に対する機械導入補助）

5．特長的なのが“農林楽舎”の設立です

・平成21年4月　一般財団法人として（資本金3,000千円＋ＪＡ・森林組合・商工会が各々500千円）基本財政4,500千円

・組織構成　事務局他19人（国からの補助かなりあり）

・目的：ブランド化、販路拡大、商品の開発、後継者の育成等

⇒事務現場（販売所）に行ってきましたが、活発。発展中と感ずる。

（まとめ）

・基幹産業である農業に対して、きめ細かい施策を打ち出し、反省と実行を行っている。
小さな生産者にもそれを活かすための補助を行い、収入の一助としている。
おかげで耕作放棄地が減っている。平成12年　2.8ha　→　平成22年　1.6ha　へ

・農林楽舎を設立して、時流に敏速に対応が出来るようにしている。又、関係者が協力し合うように出資している。第6次産業化も目指している。見習うこと大である。

・具体的数値を掲げ、反省と実行を実施している。大変参考となる。

※農業は、国の政策に大いに関わることが多い。首長（市長）が国及び県へ熱心な関係（情報）を結んでいることが大切であると思います。

※小郡市としても、基幹産業であるなら、もっと多くの特長のある政策を打ち出すべきであります。

尚、大野市の資料添付します。

大変勉強になりました。市民の皆様他、こういう機会を頂きありがとうございました。感謝申し上げます。

以上